

## プログラム

- ハイドン : ピアノソナタ第46番 変イ長調 op. 54-3 (演奏時間 18分)  
メンデルスゾーン : 無言歌集第1巻 op. 19bより 第1番ホ長調「甘い思い出」  
第6番ト短調「ヴェニスの舟歌」  
無言歌集第7巻 op. 85より 第4番ニ長調「エレジー」(計9分)  
メンデルスゾーン : プレリユードとフーガ ホ短調 (8分)  
リスト : スペイン狂詩曲 (12分)

### 休 憩

- ラフマニノフ : 10のプレリユード op. 23より  
第1番嬰へ短調、第2番変ロ長調、第5番ト短調、  
第6番変ホ長調、第7番ハ短調、第10番変ト長調(計20分)  
ラフマニノフ : ピアノソナタ第2番 変ロ短調 op. 36(1913/1931改訂) (23分)

### 演 奏 者 の 言 葉

「ラフマニノフとの出会い」というと大げさなのですが、僕が高校2年の時にホロヴィッツの弾くピアノソナタ第2番を初めて聴いた時の衝撃は忘れることができません。それ以来ラフマニノフの全ての作品を知りたいと思い、レコードやラジオで彼の曲を聴きあさったものです。今でもソナタ第2番を始めとするピアノ曲、3つのシンフォニー、4つのピアノ協奏曲などは僕の大好きな作品であり、大切な作品なのです。

ラフマニノフについてはそのあまりに甘美なメロディーのゆえに、「安っぽいハリウッド的な音楽」という誤解が一部にはあるようです。しかし、僕にとっては聴けば聴くほどその美しさや耳あたりのよさといった表面的な音楽の表情の奥に、彼独特の陰影に富んだ世界が感じられ、それがあたかも麻薬のごとく僕を夢中にさせたのでした。

ラフマニノフの音楽には3つの大きな長特があると思います。第1にハーモニーの美しさ、第2にリズムのユニークさ、そして第3にこれらの上に表現された感性の自由さです。「10のプレリユード」の第5曲などはロシアの土俗的なリズムがラフマニノフの手法により彼独特のリズムに結晶された見事な例です。ラフマニノフのピアノ曲というのは、ピアニストとしての彼のテクニック、そして音楽性が反映されたきわめてピアニスティックな作品です。ラフマニノフの自作自演を聴いてみると、その演奏の自然さ、シンプルさ、その中に表現されている絶妙なディーテイルや歌ごころに心を奪われてしまいます。また、超人的ともいえるリズム感の素晴らしさがもたらす爽快感、というものがラフマニノフ独特のものであります。僕たち演奏家はこのようなラフマニノフの音楽要素やその意図を充分に知る必要があります。その上で自分のイメージやセンスを総動員し、演奏家自身の感性を全て出し尽くしてこそラフマニノフの作品と向かい合い、演奏することができるのだと思っています。

本日演奏するピアノソナタ2番は、基本的に1913年に作曲されたオリジナル版に基づいています。ラフマニノフは後にこの作品の大幅な見直しを行い、1931年に改訂版として出版しました。改訂版では作品全体にわたって声部を整理した結果、ハーモニーが非常に洗練されたものになりました。しかしその一方で、オリジナル版のもつ非常に美しく魅力的な部分も大幅にカットされてしまったように思われます。この点を考え、本日はあくまでオリジナル版をベースとした上で、全体の構成が崩れない程度に改訂版の要素を取り入れた、言わば「ミックス版」でこの作品を演奏いたします。このミックスに関しては本来大それた試みかもしないのですが、あくまでも僕自身が感ずるところに忠実でありたいという願いによるものです。

また、本日のプログラムの前半ではハイドン、メンデルスゾーン、リストを演奏いたします。これらの作曲家の作品は僕たち演奏家にとって常に基本となるものです。ですからこうした古典作品は今後とも積極的に演奏会で取り上げていきたいと思っています。

それではどうぞ最後までごゆっくりお聴きください。